

配を繰り返すことにより、花持ち性の改良が可能であることを明らかにし、対照品種の2倍～4倍優れた花持ち性を有し、かつエチレン低生成性あるいはエチレン低感受性の系統の作出に成功した。(Onozaki et al., *Scientia Horticulturae*, 87, 107-120 (2001))

【新規ジベレリン類の発見】モモ未熟種子より新規ジベレリン(GA)類として、GA₁₁₈, GA₁₁₉, GA₁₂₀, GA₁₂₁, GA₁₂₂, GA₁₂₆を発見し、それらの化学構造を決定した。(Nakayama et al., *Phytochemistry*, 57, 749-758 (2001))

【遺伝子組換えによる矮化作物の作出】ジベレリン生合成遺伝子であるカボチャ未熟種子由来の20位酸化酵素遺伝子をレタスに導入することにより矮化レタスの作出に成功し、遺伝子組換えによる矮化作物の作出の可能性を示した。

(Niki et al., *Plant Physiology*, 126, 965-972 (2001))

【新病害の発見】デルフィニウムの新病害は、下葉から徐々にしばみ始め上部の葉に達し植物全体が枯死する症状を示すが、この半身萎凋病の病原菌として新たにパーティシリウム・トリコープス菌を同定した。(日本農業新聞、平成

13年5月24日)

【老化遺伝子の発見】カーネーションの花の老化を引き起こす遺伝子として、エチレン受容体ETRタイプ遺伝子の存在を明らかにした。

(日本農業新聞、平成13年7月29日)

おわりに

当研究所は花き園芸の基礎研究分野において、我が国では初めて設立された研究所である。現在、圃場、温室等の施設を整備中であり、つくばと安濃(旧野菜・茶業試験場花き部所在地；三重県安芸郡安濃町)とでの研究の分散を余儀なくされてはいるが、平成15年度末にはつくばに集結する予定である。少人数での研究機関ではあるが、花き園芸における様々な問題点の解決や新たな花き園芸の創出に真摯に取り組むことを心掛けているので、花きに関わる皆様方の暖かいご支援をお願いしたい。

連絡先：〒305-8519 茨城県つくば市藤本2-1

花き研究所 腰岡政二

TEL:0298-38-6801, FAX:0298-38-6841

E-mail: masaji@affrc.go.jp

ヒマワリは日回りか？

ヒマワリ(日回、向日葵とも書く)の花は朝は太陽に向って東を向き、陽が沈む夕方にはぐると回って西を向く、つまり太陽の動きにつれて常に太陽に向かって開いてぐると回るので日回り(ヒマワリ)というと言われていました。実はこれはマッカなウソです。

中国の「被伝花境」という古い書物に「向日葵、一名西番葵(中略)ノ花ハ太陽ニ随ッテ回転ス、日ガ東ニ昇レバ花ハ東ニ向イ、日ガ天ニ中スレバ花ハ直チニ上ニ向朝(向キ)、日ガ西ニ沈メバ花ハ西ニ向朝(向ク)」と書かれていて、このことから日回、向日葵と名づけられたと言われ、また、わが国でも宝永6年(1709)に貝原益軒の「大和本草」という書物には向日葵をヒュウガアオイと書いて「花ヨカラズ最下品ナリ、只(タダ)日(太陽)ニツキテマウルヲ賞スノミ」(花は最も下品で良くないが、ただ、太陽の動きにつれて花が回るのが面白い)とあり、貝原益軒もヒマワリは陽に向って回ると書いているがこれはいずれも誤りでヒマワリの花は断じて回ることとはないと牧野富太郎博士が書いている。

ヒマワリの花が太陽の動きにつれて回ると言う話はこんな昔の書物からきたようだが、現実には花が咲いたときの方向のままでビクとも動かない。(S)